

# 会 議 録

会 議 名	第4回 八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 高齢者計画・介護保険事業計画策定部会
日 時	令和5年(2023年)8月9日 14時00分～16時00分
場 所	八王子市役所 職員会館 第二・三会議室
出 席 者 氏 名	委 員 杉原 陽子委員、村上 正人委員、田中 泰慶委員 (3名)
	臨 時 委 員 村山 洋史委員、島崎 誠委員、大井 みゆき委員、大島 和彦委員、 野島 啓子委員、竹内 将人委員、大竹 毅委員、井上 顕委員、八木 広行委員、 香川 正幸委員、土井 俊彦委員、牧野 友香委員 (12名)
者 氏 名	福 祉 部 松岡 秀幸部長 高齢者いきいき課 吉本 知宏課長、辻 誠一郎主査、森田 直樹主査、吉井 文隆主査、池田 光主任、吉村 航季主任、大内 夏奈主事、和泉 みのり主事
	福 祉 政 策 課 金田 篤主事、佐藤 桃子主事
	高 齢 者 福 祉 課 富山 佳子課長、佐草 真悠主任、竹内 三枝専門員
	介 護 保 険 課 中山 あずさ課長、長谷部 晃一課長補佐兼主査、波野 周主査
	健 康 医 療 政 策 課 秋山 智久課長補佐兼主査 住 宅 政 策 課 秋山 三成課長補佐兼主査
欠 席 者	新井 隆男委員、鈴木 長一委員 (2名)
次 第	1 開会 2 議題 ワーク「個別ロジックモデル」 3 意見交換 4 事務連絡 5 閉会
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数	5人
配 付 資 料	・次第 ・資料2 全体・個別ロジックモデル(第3回計画策定部会使用資料) ・意見書

## 会議の要旨

辻主査	<p><b>1 開会</b></p> <p>定刻となりましたので、ただいまより八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門分科会 第4回八王子市高齢者計画・介護保険事業計画策定部会を開会いたします。</p> <p>なお、本日はグループに分かれてのワークショップを行います。進行の関係上、グループごとに座席を用意しております。</p>
-----	---

	<p>「資料の確認」</p> <p>それでは、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日の資料は、前回の資料「資料2 全体・個別ロジックモデル」を使用します。そのため、今回机の上に配付しているものは「次第」と「意見書」のみとなっております。</p> <p>お手元に資料がない方、前回配付したロジックモデルをお持ちでない方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いします。</p> <p>次に会議の公開・非公開についてですが、八王子市社会福祉審議会条例施行規則第4条及び八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針 第12に基づき、原則公開いたします。公開することが適当でないときとは非公開の決定を行うこととなっております。</p> <p>会議録については要綱第10条に基づき事務局で調製いたします。調製後、会長のご承認をいただきます。</p> <p>本日、欠席委員は2名ですので開催要件は満たしております。</p> <p>なお、本日の傍聴者は5名です。</p> <p>本日も、前回同様、ワークショップの間に計画策定の過程を記録するためにカメラで様子を撮影させていただきたいと思っておりますので、ご了承ください。</p> <p>それではここからは、八王子市社会福祉審議会条例第4条第3項及び第6条第6項の規定に基づき議事の進行を会長に委ねます。</p> <p>杉原会長よろしく願いいたします。</p> <p>それでは次第に沿って議事を進めて参りたいと思っております。</p> <p>議題「個別ロジックモデル」についてです。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p> <p><b>2 議題「個別ロジックモデル」</b></p> <p>今回も前回と同様の形でワークを行います。前回はかなり時間が厳しかったので、今回は机の前にあるロジックモデル1つを45分かけて議論していただくという構成にしております。</p> <p>ワークの進め方ですが、まず事務局がそれぞれのロジックモデルの大まかな構造や、特に論点となるところなどをご説明いたします。そして、事業を実際に担当している職員もワークに加わって議論させていただきます。</p> <p>45分間議論をしていただく中で、どんな議論をしてどんな課題が見えてきたのかを最後に発表していただきますので、発表者も決めておいてください。発表後、そのロジックモデルについてほかのグループの方も含めた意見交換を行います。</p> <p>ワークにあたっては、右側にあるものがより上位のアウトカムになっておりますので、上位目的を達成するために、「足りてない視点や、足りていない事業はないか」、さらに、「今ここに書かれている事業やアウトカムが、上位アウトカム達成に本当に役に</p>
杉原会長	
辻主査	

	<p>立つのか」、そして「事業の施策が実際に実現可能なのか、いわゆる絵に描いた餅になってしまうような素材要因はないだろうか」、また「コストパフォーマンスや施策の持続性に問題がないか」、こういった様々な視点から意見をいただければと思っています。</p> <p>なお、事業の効果やアウトカムの達成度合いを図るための指標は、次回第5回の部会で皆様に案をお示しする想定で準備しております。そのため、今回の時点では測定方法までは触れなくて大丈夫です。</p> <p>私からの説明は以上です。</p>
杉原会長	<p>はい、ご説明ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明についてご意見、ご質問等はございますか。</p> <p>大体前回と同じ要領ですので、皆様は大丈夫かと思いますが。では、ご質問等ないようですので、ここからは3グループに分かれてワークショップを行います。</p> <p>グループごとの進行は各グループ担当の事務局が行います。ワークショップの時間はおおむね2時55分を目途にお願いいたします。</p> <p>最後に5分程度の発表の時間を設けていますので、発表者も決めていただくようお願いいたします。</p> <p>それでは、各グループで作業を開始してください。</p>
	<p>《ワーク（45分）》</p>
杉原会長	<p>皆様、ありがとうございます。</p> <p>それでは、時間となりましたので、各グループの発表に移ります。</p> <p>発表は1グループ5分間程度でお願いいたします。</p> <p>では、Aグループから発表をお願いいたします。</p>
八木委員	<p>《Aグループ発表》</p> <p>Aグループでございます。C02「在宅医療と介護が一体的に提供されている」について議論を固めております。</p> <p>アウトカムの中の一番大きなくくりとしましては、サービスについて、市民の意識について、専門職の意識について、実際の現場ではどうかという、この4つの大きな内容についてお話をしております。</p> <p>歯科医師会の先生もいらっしゃいましたので、在宅医療と介護は、実際現場では大体連携できているのですが、やはり市民向けの啓発のための発信が不足しているのではないかなというお話がありました。</p> <p>そのような中で、市が医療と介護連携について市民向けの啓発動画を作成して病院や、市の施設、YouTube等で流すとか、ほかにもACPや、医療の相談窓口はこ</p>

ういうところにあるよといった、市民向けに発信する場がもっとあっても良いのではないかというお話がありました。

あと、竹内先生もいらっしゃいましたので、在宅歯科という視点でのお話も出ております。やはり食べることはとても大事ですので、在宅療養相談窓口の中で歯科についての相談も可能かといった話が出たのですが、やはりなかなか歯科を専門としている方がいないので難しいのではないかという現実があります。

やはり歯科、口腔内のことについては、ケアマネジャーにもその辺りの把握や、あとは先生との連携を求められている中で、まだまだこの在宅と衛生との連携が不足しています。では、それをどのように埋めていくかということになると、やはり研修、それから関わりが必要ではないかということです。

専門職の意識といったところは、例えば、ケアマネジャーや、介護保険サービス事業所ですね、そういった専門職同士の会話や連携の場がないのではないかというようなお話があります。ケアマネジャーと医療との連携、サービス事業所と医療との連携というのは比較的なされているけれども、その専門職同士での連携がないので、その新たな事業政策の中で、そういったことが生まれてくると良いのではないかというお話がありました。

あと、実際の現場の中では、医療と介護の連携の中心はケアマネジャーになりがちですが、ケアマネジャー以外でも、相談窓口や包括といったところの事業、政策が整えられると、また良いのかなというような提言がありました。以上でございます。

杉原会長

発表をありがとうございました。

それでは続いて、Bグループの発表をお願いします。

《Bグループ発表》

村上委員

Bグループの発表をさせていただきます。Bグループの最終評価、C03「高齢者が、自分に合った安心できる住まいで暮らしている」について、まず高齢者が現在の住まいで暮らし続けるような改修が可能となっているかどうかに対して、基本的には経済的余裕のある人はできているけれども、経済的に厳しい人はなかなかできません。

余裕がない人への取組はどうなのかということで、本当に余裕がなければ生活保護というような枠組みに入れられるのですが、生活保護ではないけれども経済的に余裕のない人たちが、自分から見ると圧倒的に八王子市民の中で多いのですけれども、その層に対してのフォローができているかどうかということが議論になりました。

今回、このテーマに関して、高齢者というくくりでくくっていますが、介護が必要とか、家族に問題があるとか、8050問題等で、そういう問題を抱えている高齢者といったように、できればもう少しピンポイントに絞って議論しても良いのではないかという意見が出ました。

それから、基本的に住宅問題で総合的な意見としては、八王子は都内と比べると、比較的高齢者という理由で、その居住を拒否されるということは少ないですが、そうはい

っても、なかなかエレベーターがないとか、階段が厳しいという、八王子は平らな部分だけではないので、そういう問題も多々あるのではないかという話が出ました。

あと、一人ひとりの高齢者の状況を一番把握しているのは、やはり民生委員の方で、その民生委員の方たちに対する連携だとか、あと、ごみ屋敷等の問題について議論されましたが、役所の中でもごみ屋敷の問題が家の中と家の外のごみの問題で管轄が違いますよね。

私は、マンションのごみ屋敷を結構見ており、家の中にごみが溜まっていれば、ごみ屋敷だと思っていましたが、市の所管課が変わると、家の外にごみが溜まっていないと、ごみ屋敷という認定はされないというお話を聞いて勉強になりました。

さらに、介護が必要な高齢者と、そうでない高齢者によって、住まいに関しては大分変わってきますが、八王子は施設が多いので、介護が必要な高齢者に関しては、今ある施設、有料老人ホームとか、そういう資源をうまく使って対応していくのはどうかという意見が出ました。

あと、八王子市の対応として、居住支援協議会というものがあるそうで、そことの連携を取っていくと話が進むのではないかという話もありました。

あとは居住支援協議会とケアマネ、包括が連携を図っていったらどうかという意見が出ました。

それと同時に、市役所内の人事交流ということで、高齢3課や、居住の政策課や空き家対策を行っているところなど、いろんところで人事交流、できれば勉強会や研修等を行っても良いのではないかという意見がありました。

最後に、その連携をとるときに、例えば、ケアマネジャーだと担当者会議を各個別のお部屋で実施していますが、例えば住宅問題がある場合に、そこからオンラインで役所の担当者につないで、その担当者会議にいらっしゃるいろいろな職種の方と会議ができれば、何となく良い感じにまとまるのではないかという意見が出ました。

以上です。

杉原会長

発表ありがとうございます。各グループへのご意見や質問等は後でまとめてお伺いしたいと思いますので、引き続き、Cグループの発表をお願いいたします。

大井委員

《Cグループ発表》

Cグループの発表をさせていただきます。よろしくお願いします。

Cグループは、高齢者の権利利益が擁護されているということについて話し合いを行いました。

この中で大きなアウトカムが3つありました。最初に出たのは、この3つではなく、もう1つ上位にあるものがあるのではないかということで、いきなり虐待が行われていないといった話ではなく、そもそもそういう土壌、市全体がその虐待が起きないような地域になる、そういうふうな方向でのアウトカム、大きなアウトカムがないといけないのではないかという話になりました。

やはり市民全体の意識の向上や、全世代に向けた福祉教育みたいなもので、人とは違うということではなく、みんなの権利がしっかり擁護された地域になりますよということを、市民全体に広めていくという、大きなアウトカムをまず挙げたほうが良いのではないかという意見がありました。

その上で、この虐待の話になってきますが、虐待に関する通報からの対応に関しては、今は高齢者福祉課とか、私たち包括と一緒にやっているところですが、特にその擁護者支援においては、このアウトカムの中で支援をしていかないと、やはり虐待がまた起こってしまうのではないかと思います。まずはその擁護者の視点で、虐待をしている方はどういう方なのかというデータに基づいて、虐待が起きにくい環境をつくるということが書いてありますが、やはりそのデータ、どういうことで起きてしまっているのかという詳細なところを、この事業・政策の中で改善するような方法を考えていくというのも一つだと思います。

その中には、多分、疲弊したり、なかなか自分の時間を持ってないということで、そういうふうになってしまう方も多いので、もう少しこのサービス、介護保険法でいうヘルパーとか、介護サービスというのは、やはりきちんと法律で定められた決まりの中で使わなくてはいけない、何でもいから休みたいでは使えないという状況がありますので、そういうときに手軽に休めたり、お金がかからないサービスというのがこの事業の中にあれば、少しほっとできるような形で、虐待につながらない方法になるのではないかという意見もありました。

また、施設内で起こっている虐待については、なかなか私たちは分からないことが多いですが、やはりいろいろな目を入れていく中では、第三者委員会を活用し、委員さんがそういう目をもって見ていってくださること、そして、地域の方たちが、その施設と風通しの良い関係になって、地域の目がその中に入ることで、虐待が起こらないための抑止力になるのではないかと思います。

例えば、場所を貸して、地域の方たちが何かそこで楽しいことを行うなど、そこから市民の方が中に入れば、例えば利用者の方がぼさぼさの髪をしていけば、「あれ、この施設はどうしたのかな」と、逆に見られるほうもきちんとしなくてはいけないと感じると思います。そのため、風通しの良い施設をつくっていくという方向で、少し考えていくのがよろしいのではないかと思います。

また、判断能力が十分でない方についての支援につきましては、認知症等は特に挙げられていたと思うのですが、それだけではなく、ACP、認知症になってからではなく、市全体としてACPの視点で自分のこれからの人生をどうしていったら良いのかということ、市民、または高齢者に関わる方たち、医療や介護などの専門のところではなく、市全体として、そういう意識が醸成されてきたら良いのではないかと思います。

特に、その判断能力がつかない認知症を患った方などに関しては、やはり民間企業を巻き込んだ中で、お店や公共交通機関など、いろいろところがそういうことを理解し、そのような方が来たときも当たり前のように対応ができるような地域になることを

	<p>目指していくということを、事業政策の中に入れていったらどうでしょうという意見がございました。</p> <p>以上です。</p>
杉原会長	<p>発表ありがとうございました。</p> <p>では、次にDグループ、発表をお願いします。</p>
	<p>《Dグループ発表》</p> <p>Dグループでは、「多様な生活支援ニーズに対する支援や見守りが、多様な主体から提供されている」と言うことですが、そのロジックモデルの文言の上に、私は敢えて、高齢者と付け加えてほしいくらいですが、そのことを念頭に意見を交わしました。まず高齢者がどこに相談したら良いのかということですが、その一つとして「はちまるサポート」を取り上げました。この「はちまるサポート」は広く認知されていない現実があります。高齢者が承知していないと相談先が分からない。従って「はちまるサポート」を高齢者に向けて周知してもらうことが必要です。</p> <p>もちろん「高齢者あんしん相談センター」についても幅広い周知が必要です。</p> <p>高齢者の身近な支援として、例えば、庭の草刈り、電球の取り替えなどの日常的ニーズから健康の問題、今後の生活に対する問題まで、支援のニーズは幅広くあります。それらのニーズを把握できていないと、タイミング良く応えられないという問題もあります。また、高齢者の多様なニーズに、地域資源の観点からニーズにどう関わられるのかということもあります。</p> <p>八王子市は、ビジョン 2022 で地域を6つに区分しています。6つの地域はそれぞれ地域性があります。地域ごとに異なる高齢者のニーズもあると思います。</p> <p>高齢者の見守りについては、戦時中「向こう3軒両隣り」を高齢者の見守りの最も身近な結びつきとして活かし、しっかり見守りができればニーズも把握がタイムリーに可能となります。</p> <p>私どもの自治会では大分前になりますが、背中合わせの班になっておりましたが、道路を挟んで向かい合わせの班に変更し、回覧などの便と見守りをしやすくいたしました。何か異常があれば、自治会で組織している「見守りネットワーク」に連絡し「高齢者あんしん相談センター」と協力して対応することにしております。アウトカムの下箇所に、「地域の人や団体が高齢者のニーズを知っている」とありますが、地域支援があっても、対応する地域資源が高齢者のニーズが不明だとタイミング良く有効に機能できないこととなります。</p> <p>相談先が認知していれば、見守りがタイミング良く有効に作用し、高齢者が安心して生活ができると思います。以上です。</p>
杉原会長	<p><b>3 意見交換</b></p> <p>どうもありがとうございました。</p>

	<p>A、B、C、Dの4つの班から発表いただいたのですが、ご意見、ご質問等を伺いたいと思います。</p> <p>それぞれのグループへのご質問でも良いですし、事務局へのご質問でも構いません。まず、Aグループの在宅医療と介護が一体的に提供されているという発表内容について、ほかのグループの方からご意見がございましたら、お願いいたします。発表いただいたことに対するご意見、ご質問でも構いませんし、事務局に対してのご質問でも構いません。何かお気づきの点はございますか。</p> <p>専門職同士の連携ということをおっしゃっていたのですが、その辺りは今何か大きな課題点があるのでしょうか。既に割とよくできていらっしゃるようにも思いましたけれども。それから、市民向けの情報発信についても検討されていたかと思います。</p>
田中委員	<p>少しよろしいですか、高齢者問題のスタートは見守りだと思います。では、その体制をどうするか、地域で体制を構築していかないと1人では構築できない。そこで、見守りの最も小さい体制「向こう3軒両隣り」、そこからスタートして、個々のニーズについては、どこに相談したら良いかを皆さんが共有していればタイムリーに対応できると思います。例えば、高齢者関連の施設などのことも知っていればなお良いと思います。</p>
	<p>また、介護保険制度についても、その制度を知らないと利用できません、この中で、私が最高齢者だと思いますが、日常でそのことを強く感じており、幸いこの部会に参加しており、ある程度理解できていますが、かなりの高齢者はご存じないと思います。ですから、高齢者の立場からいえば、介護制度のことを、行政と地域が連携を取って、医療との区分をしながら上手に介護保険を理解させ、どんな状態で利用できるかを、高齢者や家族に周知させることが必要であると思います。</p> <p>もう一つ、これは今日のテーマとは関係ないですが、9期では、かなり記号やカタカナ語が多いので、特に高齢者に理解してもらえるように用語解説を具体的にわかりやすくする必要があります。なお、それぞれの項目にもコラム形式で解説をつけてあげるとか工夫をしないと、せっかく良い計画書ができて高齢者に理解してもらえないことになるので、ぜひこの解説のことは念頭においていただきたいと思います。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございました。用語解説もまた追々、ご意見も伺いながらまとめていきたいと思っています。</p> <p>今のご指摘として、見守りがとにかくまず大事だということで、この後、C03、C05、C10番、いずれも見守りに関連する話が出てきたかと思いますので、引き続きC03についてBグループの住まいの問題に関する発表へのご意見、ご質問等ございますでしょうか。あるいは住まい関連で事務局へのご質問でも構いませんが、いかがでしょうか。</p> <p>引き続きCグループの発表、C05の権利擁護ですが、こちらは何かご意見、ご質問ございますか。</p>



	<p>Cグループからも虐待が起きないような土壌というか地域づくりが大事という意見が出ており、先ほど田中委員からの指摘にもあった学びにも関係してくるかと思えますけれども。あとはACPの話も出ていたので、そちらはAグループの発表にも関連すると思えますが、いかがでしょうか。</p> <p>Cグループ以外のグループの方から、挙がっている事業施策を受けて何かお気づきの点はございませんか。</p> <p>最後、Dグループですね、C10で、多様な生活支援ニーズに対応する支援や見守りが、多様な主体から提供されている。多様ということは何でも含まれるので、一番話しくかったかと思うのですが、多様な支援ニーズですから、恐らく全てのものに関わってきますよね。なかなか議論するのは、大変だったのではないかと思います。</p> <p>リストアップされている事業や施策について、多様な支援ニーズの視点から何か漏れがあるかどうか、ほかのグループの方、気になった点がありましたらいかがでしょうか。</p> <p>すみません、事務局にお伺いしたいのですが、施策の中でてくポがすごく具体的に挙がっているのですが、てくポに特化して進めているということですか。それとも、てくポ的なものを進めていきたいということでしょうか。</p> <p>C10の中だと、一番左の事業・施策で「地域の困り事をビジネスの種として活かしていくきっかけ」というところに、てくポ(ウェルネスプラットフォーム)と書いておられて、あともう一つ、一番下から4つ目のところにもてくポというのが出ています。それぞれてくポ(アプリを使ったポイント制度)になりますが、今年度から企業とアプリの運営者であるバスプラさんとの連携によって、高齢者の健康づくりにつながるような市場サービスを情報提供していく仕組みを実験しています。それによって、高齢者が楽しく企業を使いながら健康づくりをする流れをつくれないうかという実験です。</p> <p>こういった形で高齢者の健康づくりのチャンスを、企業が増やしてくれる。それによって高齢化の中でも経済的な流れをつくりかつ限られた資源でしっかりいろんな人を健康にしていくことができないかなと、そういうのがウェルネスプラットフォームです。</p> <p>下のほうにあるのは、「住民が地域の課題解決に関わるきっかけがある」。これも今年度からの新しい実験で、てくポを通じてお仕事とかボランティアとか、その人に合った活動をお勧めするような仕組みを実証できないかなというのを実は村山先生と一緒に準備しているところです。</p> <p>こういった地域の課題解決に関わるきっかけを、てくポの中で提供できないかなというの、新しく考えてっております。</p>
<p>辻主査</p>	<p>C10の中だと、一番左の事業・施策で「地域の困り事をビジネスの種として活かしていくきっかけ」というところに、てくポ(ウェルネスプラットフォーム)と書いておられて、あともう一つ、一番下から4つ目のところにもてくポというのが出ています。それぞれてくポ(アプリを使ったポイント制度)になりますが、今年度から企業とアプリの運営者であるバスプラさんとの連携によって、高齢者の健康づくりにつながるような市場サービスを情報提供していく仕組みを実験しています。それによって、高齢者が楽しく企業を使いながら健康づくりをする流れをつくれないうかという実験です。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>分かりました。そうすると多分、てくポという書き方ではなくて、例えば民間を活用した健康づくりとか。</p>
<p>辻主査</p>	<p>そうですね、読んだ人が今言ったことが分かるようにできないか検討します。</p>

杉原会長	<p>あと皆様、いかがでしょうか。C10はいろいろありそうですけれども、聞いておきたいことはございますか。</p>
田中委員	<p>「てくポ」の話ですが、私も「てくポ」を使っていて、身近に感じていますが、使う場合に結構面倒です。都度入力する必要がありますが、例えば歩いた歩数は、自動的に感知するなど工夫が必要です。多分ポイントはそうなっていると思いますが、いろいろなチャレンジ項目があるようですけれども、その入力方法がわかりにくいようです。</p> <p>しかし、重要なポイントは歩いた歩数だと思いますので、少なくとも容易に操作できるように考えてもらいたいと思います。</p> <p>私は、南口の総合事務所で「てくポ」のアプリをインストールしてもらいましたが、高齢者は、自分ではインストールはできないと思います。「てくポ」の周知を徹底してアプリのインストールをしていただく場を多くすることが必要だと思います。</p>
辻主査	<p>今、てくポは、60歳以上が対象なので、ある程度得意な方は自分でもインストールできますが、苦手という人向けに今は月1回説明会を開いていて、結構、でもそれ最近ありがたいことではあるのですが、説明会募集開始しますといったその日に電話で予約がいっぱいになってしまったりということにもなってきていまして、新しく南口事務所に窓口を設置して、水曜日と金曜日にやっていますが、そこに行けば対面で教えてもらえますよというのを広報で周知したりとか、いろいろな高齢者に合わせたサポートの仕方を試行錯誤し続けています。分かりやすくなっていないということは今後の課題です。</p>
田中委員	<p>事務所でもできるようにしたらどうですか。</p>
辻主査	<p>なるべくいろんなところで教えてもらえるような仕組みをつくらないと、多分、普及に当たっては壁になってしまうなと思って、今はいろいろと考えています。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。そうですね、ボランティアさんも活用して、町会単位でも講習会を開くとか、いろいろな仕組みができそうですね。ありがとうございます。</p> <p>それでは、まだご質問があるかもしれませんが、次に進めさせていただきたいと思います。</p> <p>今回も非常に白熱した議論が行われておりました。今回第9期の計画に当たってロジックモデルという手法を採用されていて、前回、今回とグループで議論させていただいたわけですが、ロジックモデルは政策立案のための手法ではありますが、コミュニケーションツールとしても非常に有効な手法です。そのため、今回議論がまとまったかどうかはさておき、これを一つの材料としてメンバーでいろんな意見を交わすことができま</p>

	<p>したし、また、役所の方からもいろんなお話を伺うことができ、本当に良いコミュニケーションができたなというのが感想です。</p> <p>いろんな意見が出てきて、最後まとめるのは事務局の方、大変だとは思いますが、ぜひ、まとめていただけたらと思います。</p> <p>では、吉本課長からのコメントをよろしく願いいたします。</p>
吉本課長	<p>はい、高齢者いきいき課の吉本です。本日もまた前回に引き続き、各グループで議論いただき、ありがとうございました。</p> <p>私はBグループで、住宅、住まいをテーマに話していました。高齢者に限らず我々人間ですから、衣食住という3つの大事な要素の中で、住まいは基本的なところで一番大事な部分なのかなと思います。人間が生活していく中で住まいは、24時間ずっとその住まいにいるわけではないですけども、最後に帰ってくるのは住まいかと思しますので、そこが一番生活のベースになってくるのではないかと考えています。人生も終盤に向かっていっている高齢者の方々が住まいに何を求めて、どういった支援が必要になってくるのか、そういうところって非常に視点として大事なかなと改めて感じました。</p> <p>今回、議論をしていく中で、我々高齢部門の職員だけでは物足りないので、今回は住宅部門の職員にも入っていただいて、いろんな話題も受けましたし、情報もありましたし、また我々も住宅部門ともきちんと連携していかなければならないというのを、改めて感じました。引き続き、この計画策定の中で、そういった部分をしっかり盛り込んで進めていきたいと思えます。どうもありがとうございました。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、今回取り上げた4つ以外の意見交換をお願いいたします。</p> <p>前回の部会でほかのグループがワークをしたものでも、取り上げていないC08の「多様な職種や機関が連携して個人や地域の課題を解決していくこと」についてでも良いので、ご意見、ご質問をお願いいたします。</p> <p>前回の議論は、「家族の負担が軽減されている。」それから、「認知症の予防と共生に向けた支援体制が整っている。」、「身近な場所で、様々な困り事について安心して相談できる体制が整っている。」、「ライフスタイルや趣味に合わせて、就労や地域活動などの社会参加を行っている。」についてでした。まず、この4点について、ご意見やご質問あればお願いいたします。前回は時間の都合上、質疑応答の時間を設けることができなかったもので、今回お願いいたします。</p> <p>事務局にお伺いしたいのですが、例えばC11「ライフスタイルや趣味に合わせて、就労や地域活動などの社会参加を行っている」とある一方で、今日議論されたC10、この中には通いの場への参加とか、ボランティアとか、そういうのがありますけど、内容が類似している場合は、再編成されるのでしょうか。</p>

<p>辻主査</p>	<p>はい、そうですね、結構、C10とC11はつながりが深く、人がいろいろな場所で誰かとつながっているということ自体が、例えばC10だと見守りの前提条件になりますし、そういったつながりの場が多くなるということは、C11だと目的として一つ、居場所を感じられる場があるみたいな形で考えていました。</p> <p>あとは、そのボランティアという地域活動については、C10ではその困っている方をボランティアが支えるという、サービスの視点でボランティアというのを挙げていますが、C11はボランティアする人にとっての生きがいの場としてのボランティア活動というのを挙げています。</p> <p>ただ、視点は違えど、やることとしてはボランティア活動をする人たちがやりやすくなるとか、そういった事業として同じものが入ってくることになるので、このロジックモデル間で重複する内容については、今日の議論の内容を踏まえて、すっきり見えやすいように整理していこうかなと思っています。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>ありがとうございます。C10はかなり多様で幅広い内容なので、少し論点が見えにくくなっているかと思いますが、こちらはDグループの皆様はどうですか。ご意見がございましたらお願いいたします。</p>
<p>村山副会長</p>	<p>多様なという言葉がC10には入っているのですが、先ほどここで議論したのは、一つひとつがどう多様なのかとか、何があるのかというところではなくて、やはりニーズ、何かこういうものが欲しいというときに、一体どういうふうに情報収集すれば良いとか、どう相談すれば良いかという、実はいろいろなところにすごく関わってくる問題といたしますか、事項が多かったなという印象でした。ほかは地域のつながりとか、関わりの問題とか、あまり多様というところに引っ張られず議論をしたいので、特殊な事業を残すかどうかというのは、どちらでも良いですし、引っ張っても流しても良いかなという気も何となくしております。</p>
<p>杉原会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>続いて、C12「住民が介護予防に資する活動に取り組み、要支援・要介護状態になりにくくなっている」、C13「再自立が可能な方に確実に機会が提供され、自立した暮らしを取り戻すことが可能になっている」、C14「状態改善や自立可能なサービスが提供されている」、C16「介護人材が十分に確保され、やりがいを感じながら、無理なく、効率的に働いている」。こちらの4件についてご意見、ご質問をお願いいたします。いかがでしょうか。</p> <p>C12にも結構カタカナが出てきていますね。</p>
<p>辻主査</p>	<p>そうですね、これもてくポ(歩数記録によるポイント)とか、てくポ(食事記録によるポイント)みたいな形で書いた上で、あとはどうしても1つのロジックモデル上に、読んでいる人にとって初めて見る言葉がいっぱい出てきそうなので、用語解説とか、場合</p>

	<p>によっては小さい注を下に入れるとか、なるべく読んでいて疲れないようなつくりを考えています。は内容が重複しているところや、ここまでの議論を踏まえて全体的に修正が必要などところとかも出てきそうなので、少し全体を見渡して、分かりやすく整理してくださると良いかと思います。</p> <p>我々側の今後の流れで言いますと、今日まででいろいろと議論いただいた内容を、急いで再整理する準備をしています。</p> <p>そして、議論を踏まえて再整理したロジックモデルの指標を考えて、案のたたき台をつくった上で、庁内で調整をしていくという流れを、今週から来週にかけてやっていくようなイメージです。</p> <p>ロジックモデルはこんなふうに更新しましたというのを次回の部会でお示しますので、またそのときに見ていただければと思います。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>すみません、検討中かもしれませんが、防災ですか、記載がないのはどういうことなのでしょう。</p>
辻主査	<p>こちらについても今は庁内を調整するためのたたき台を担当レベルでつくっているところでして、次回の部会では全て埋まっている状態になっているはずで。</p>
杉原会長	<p>災害もありますし、感染症のコロナも完全に終わったわけではありませんので、前回はコロナとか感染症についてはあまり話題として出てきていなかったと思うのですが、とはいえ、コロナに限らず、高齢者の感染症対策も、記載する必要があると思います。ほかに何か全体を通してご意見あればお願いいたします。</p>
香川委員	<p>香川です。思い出しましたが、C09で、「身近な場所で、様々な困り事について安心して相談できる体制が整っている」という、ロジックモデルの中のテーマですが、先日、大井さんと同じワークグループになりまして、包括支援センター、高齢者の見守り相談センター、やはり地域の住民に潜入といいますか、入り込んで活動しないとけないということを申し上げたら、大井さんがおっしゃるには、相談センターといった問題は、やっぱり住民と接点を強くするというのももちろんありますが、相談を受けたほうで、どう問題を解決していくかというほうがむしろ難しく大変だという話を聞きまして、確かにそうかなと。</p> <p>このロジックモデルには接点をいかに増やすかということにポイントが絞られてございますが、どうも実態はそうではなくて、1件1件の受けた相談に対して、きちっと解決まで行く時間と労力、体制、人員、そういったところが重要ではないのかというのが本質だというお話を聞いて、確かに、そう言われてみるとそうだなと。住民の立場からは窓口に行くまでがポイントだと、このロジックモデルは相談できる体制が整っているということですので、接点まで住民がつくるのが一つポイント。</p>

	<p>あとは、非常に難しい虐待の問題とか、1件1件が非常に重い問題を解決できる体制、場合によったら警察だとか、弁護士だとか、多様な専門職との連携がないと解決できないような、その要素もこのロジックモデルの中にぜひ加えていただきたいと思います。</p>
辻主査	<p>ありがとうございました。</p> <p>問題を解決するにあたって、8050問題など世帯そのものの問題もあれば、経済的な問題を高齢者が抱えているなど複合的な問題が多くて、今おっしゃったように例えば警察とかもそうですけど、いろいろな機関と連携をしながら問題を解決する必要があるとあって解決の難易度が上がっているという話も聞いております。そこで必要になるのが、いろいろな機関が連携しながら、個人の問題解決や、地域の問題解決を進めていくというもので、そのためのロジックモデルとして、C08の中で議論を進めています。</p> <p>今おっしゃったようなところが連携の視点でかなりキーになってくると思いますので、改めてここで考えていこうと思います。</p>
杉原会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは最後に、事務局より連絡事項をお願いします。</p>
	<p><b>4 事務連絡</b></p> <p>次回開催日程は、9月26日（火）午後2時から4時までを予定しています。詳細につきましては、開催日の約1か月前に開催通知をメールで送付しますので、日時・会場等ご確認の上、ご出席をお願いします。</p> <p>本日の会議内容やロジックモデルについてご意見等ございましたら、配付させていただいた意見書を、1週間以内にメール、郵送、FAXまたは直接事務局までお送りください。</p> <p>第3回、第4回部会で議論していないロジックモデルについても、ご意見等ございましたら、併せて意見書にご記入いただきますよう、お願いします。</p> <p>なお、本会議の会議録については、後日各委員に内容確認のためメールで送付させていただきますので、ご確認をお願いいたします。</p>
杉原会長	<p><b>5 閉会</b></p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、以上で本日の会議は終了させていただきます。</p> <p>お疲れ様でした。</p>